



190名あまりが参加し、子ども支援のあり方を論議した第2分科会
 =鹿島市生涯学習センター「エイブル」

研究大会
 分科会

鹿島・嬉野・太良の地に1000人が集う

この大会を機に、顔の見えるつながりをさらに広く深めよう

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内
 TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

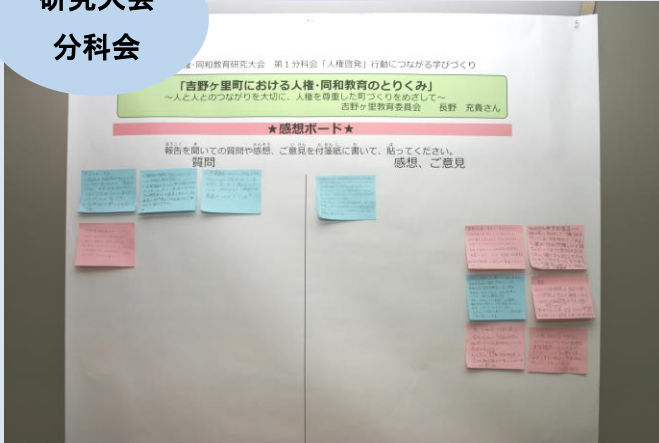
10月18日(金)鹿島市・嬉野市・太良町の5会場
 において、第43回佐賀県人権・同和教育研究大会分科
 会を佐賀県教育委員会と佐同教が主催して開催しま
 した。

県南西部での開催となりましたが、学校教育・社会
 教育関係者をはじめ、PTA等から合計千名を超える
 参加者がありました。

「地域にある人・もの・ことを生かした人権教育・
 啓発・まちづくりの取り組みを発信しよう!」の大会
 テーマのもと、各会場で参加者同士が交流する場も多
 く設定され、連携の大切さを再確認する大会となりま
 した。

来年の第44回研究大会は、来年8月8日(金)に
 佐賀市文化会館で全体会を、10月21日(火)に杵島
 武雄・伊万里有田地区で分科会を開催する予定です。

研究大会
分科会



ふせん紙を使って意見を集約した第1分科会
＝太良町自然休養村管理センター（写真上2枚）

それぞれが行動を起こしていくために 学びを深め、つながいを強めた分科会

鹿島市・嬉野市のゆるキャラも登場した第5分科会
＝鹿島市民会館

(写真右2枚・右下1枚)



参加者が交流し合うことで学びが深まった第3分科会
＝嬉野市公会堂（写真上）



人権・部落問題学習の実践を交流し合った第4分科会
＝嬉野市文化センター（写真右）



佐同教就学前教育研究大会

佐賀市産業振興会館
2013. 10. 27 (日)



就学前教育の重要性を再確認

100名を超える参加者が子どもとの関わり方を学ぶ

今年度からこれまでの課題別研究会「就学前教育」から就学前教育研究大会と改称し、より幅広い就学前教育における取り組みの発信・交流の場をめざして、10月27日(日)に佐賀市産業振興会館で開催した大会には、行政・教育関係者をはじめとする100名を超える参加がありました。

「自分や友だちを大切にできる教育・保育を創造しよう」を大会テーマに、午前中はNPO法人

佐賀県放課後児童クラブ連絡会の石橋裕子さん、唐津市若竹保育所の里石信子さんから、それぞれ地域における子どもたちやその家族への支援の実践、支援を必要とする子どもへの関わってきた実践の報告がありました。



午後からは、北九州夜の子ども相談室代表の外松太恵子さん(写真上)を招いて、「千の子どもに千の花」子

どもの心のスイッチはいつもONです」の特別講演がありました。

北九州市立少年相談センターの開所当初より、青少年とその関係者のカウンセリングにあたって

きた経験談を具体的事例をもとに話していただき、子どもへの対応の仕方、周りがすべきことを考える機会となりました。

参加者の感想より (一部抜粋)

- 【石橋裕子さんの報告について】
 - ・小さい子のいる母親は一人で思い悩んでしまうことも多く、他の市町にもこの取り組みを広めて欲しいと思いました。
 - ・自治体職員としてもっとできることはなにかと改めて感じました。
- 【里石信子さんの報告について】
 - ・目に見える「障がい」、見えない「障がい」さまざまな「障がい」のある子を支援していく周囲の存在の必要性を再認識することができました。
 - ・子どもに寄り添い、ともに学び合う素敵な教育だと思いました。
- 【外松太恵子さんの特別講演を聴いて】
 - ・一人ひとりの子どもたちを大切にしたいと改めて考えることができました。
 - ・「すべてのことに間に合わないことはない」という言葉がとても心に響きました。子どもの大事な時期に関わっていることを忘れずにしたいと思います。

県外研修報告

社会教育部

県外現地研修に参加して

佐賀市人権・同和政策課 南 恵子

10月3日(木)・4日(金)の2日間、県内の社会教育関係者15人が参加しての現地研修会が鹿児島県霧島市と知覧町で行われました。

1日目は、霧島市教育委員会(霧島市隼人庁舎)にて、生涯学習課の方から霧島市の人権教育・啓発の推進についてお話を伺いました。

いつでも誰でも研修を受けることができるようにをモットーに、事業推進がなされ、「子ども人権セミナーin中学校」や「人権教育啓発推進者養成講座」(8回コース)「人権セミナーin高校」など、幅広い世代を対象とした研修会が実施されています。

また、「人権出前講座」は、学校・企業・グループ等5人以上の参加で利用できる制度で、年間20講座分を予算化しているとのことでした。

委員会形式での研究集会

次に霧島市隼人人権啓発センターに伺いました。センターでは、霧島市生活環境部市民課の方から「霧島市人権啓発推進まちづくり会議」やフェスタの開催などについて話がありました。

後半は「隼人支部の概要」を部落解放同盟鹿児島県連合会隼人支部長さんに話をいただきました。支部の概要や「部落差別の完全解消と一人ひとりの人権が尊重される町づくり」のための活動紹介がありました。中でもメインの事業である研究集会では、大会テーマを「解放のひろがり」を隼人からさきしまへ」とし、運動体・行政・教育関係者で実行委員会をつくり、毎年実施しているとのことでした。



さまざまな活動を通して地域での交流も進んでいる中、未だに根強い差別意識が無くなっていないという現状もあり、今後も根気強く啓発していくことの大切さを語られました。

平和を守る大切さを実感

2日目は知覧特攻平和和会館で研修を行いました。この施設は太平洋戦争の沖繩戦で、人類史上類のない爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たりした



陸軍特別攻撃隊員の遺影、遺品、記録等貴重な資料を収集・保存・展示して当時の真情を後世に正しく伝え、世界恒久の平和に寄与するために建設されています。

特攻隊員たちが二度と帰ることのない「必死」の攻撃に臨み、肉親や知人にあてて出された多くの手紙が展示されており、来館者の涙を誘っていました。

館内でのビデオ上映の中で、絵本「ほたる」のモデルとなった鳥浜とめさんご自身の話があり、「自分は蛍になって帰ってくる」といった宮川さんのこと、朝鮮人として特攻隊に志願し、最後の夜に「アリラン」を絶唱した金山少尉のことなどを淡々と、時には涙を流し語られるお姿が印象に残りました。そして改めて戦争の悲劇を思い知り、平和を守っていくことの大切さをあらためて実感しました。

今回の現地研修では多くの収穫がありました。中でも霧島市の関係者の方々と交流し、参考となる意見や取り組みを知ることが出来たことは、自分自身にとってとても有意義でした。今後の啓発活動のなかで生かしていきたいと思えます。